

## 第4回とやま未来創造県民会議における主な意見

(平成29年1月18日 開催)

### ◆全般に関すること

- 今後、戦略に掲げる具体的な施策の推進が必要と考える。
- 富山県は「ものづくり県」ということをもっと打ち出して、他の地域との差別化を図るべき。
- 戦略の推進にあたっては、計画と実際の事業とに乖離がないよう実施すべき。
- 住民の皆さんにもう一度地方創生についてPRし、県と市町村が連携して、地方創生の取り組みを実施することが重要である。

### 【基本目標1】結婚・出産・子育ての願いが叶う環境整備

- 県民希望出生率1.9を目指すには、子育てで困っている人を助けるという姿勢を示すべき。
- 女性の県内定着には、県内男性と結婚することが有効であり、結婚支援の充実を図る必要がある。
- 育児などをするにはゆとりをもった働き方が大切であり、そうしたモデルを年代別に提示していくことが有効と考える。
- 育児休業復帰時のタイミングで、入園できずに4月まで待たされるケースがあるので、解消に努めるべき。

### 【基本目標2】産業振興、若者等の雇用創出、観光振興、県内への移住促進

- ロボット産業は裾野が広く、中小企業の育成にもつながることから、県立大学にロボット学科が開設されることを契機に、「ロボット富山」を打ち出せばよい。
- 中小企業の育成のため、県内の大企業の幹部等と、中小企業の幹部とが交流していくことが大切。
- 食品ロス対策として、飲食提供側も食べ残しの持ち帰りを推進するなど、意識をもって取り組むべき。
- 採用（特に技術系）に苦慮しており、首都圏等で合同企業説明会や就職セミナーを開催するなど、UIJターン施策により一層取り組むべき。
- 県外の若い世代に富山の魅力をアピールする観点から、修学旅行や体験学習の誘致を促進すれば、将来の来県につながるのではないかと。
- 世界中から富山へ誘客できるように、マスコミ等を通じたPRに取り組むべき。
- 外国人観光客がどんどん増やそうとするならば、外国語通訳やおもてなしができる人材を育てなければならない。
- 外国人旅行者に対応するため、案内標識やパンフレットの英語表記をより充実する必要がある。
- 新幹線延伸を見据え、石川県、福井県や新潟県とも連携しながら、薬、健康などをテーマにMICEの誘致に努めるべき。
- 食の更なるブランド化の取り組みを推進すべき。

- 各県が移住促進に取り組んでいるので、特徴的なPRをしないと埋没してしまう恐れがある。
- 定住人口を増やすため、富山県が首都圏と比較して、収入面の違いも含め広い家に住めるという利点をもっとPRすべき。
- 県外出身大学生の定着のため、富山の暮らしはどの世代でもファーストクラスであることをPRし、実際にその暮らしを体験してもらうことがとても大事である。
- 富山県のブランディングを図る上で、「薬都とやま」など目玉となるものが必要で、動画等による情報発信が効果的。
- 新幹線開業により、東京から約2時間圏域になったことから、U I Jターンや移住・定住の促進につなげていくべき。
- 富山県の強みを積極的にPRし、よりU I Jターン、移住・定住促進の取り組みを強化していく必要がある。

### 【基本目標3】女性・高齢者など多様な人材の確保と労働生産性の向上

- 出生率向上の観点からも、働き方改革は非常に重要であり、例えば、労働時間の削減の観点から過剰サービス・品質を求める風潮を抑制することも必要ではないか。
- 70歳まで働けるような環境づくりを目指すことが必要であり、まずはデータの分析に取り組むべき。
- 意欲のある高齢者が活躍する場の創出が、人手不足の解消につながると考える。
- 学生に商店街の空き家を提供して、まちを活性化させる取り組みを充実するべき。

### 【基本目標4】活力あるまち・健やかな暮らし・未来を担う人づくり

- 新幹線開業後も引き続き羽田便があるが、乗り換えなどのメリットを活かし、今後もしっかりと残すよう取り組むべき。
- 過疎化が進行している地域の高齢者はマイカーを手放すことができない。高齢者の事故が多発する中、通院や買物に必要なルートを運行する公共交通機関の実証運行を検討すべき。
- 富山県は全国と比較して高齢化率が高いことから、健康寿命の延伸により力を入れるべき。
- 将来のUターンにつなげる観点からも、ふるさと教育は非常に重要と考える。
- 富山県の文化振興を特徴的なものとするため、文化行政に関する県民参加型のミーティングのさらなる充実を図るべき。